

信楽小学校

2019年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

【市町 目標】

○ 授業改善と家庭学習の充実を両輪で取り組むことにより、学ぶ力を高め、確かな学力を育む。

【学校 目標】

○ 校内研究を中心に、新学習指導要領全面実施に向けた授業改善に全校挙げて取り組む。また信楽小学校版「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の啓発、推進に取り組む。

【現状と課題】

- 視点1 主体的・対話的で深い学びへの授業改善は途上である。特に対話的な児童の協働活動、こうが授業術でいう「考えつなげて学び合い」の学習形態の工夫、質の高まりが課題である。また家庭での過ごし方においてはメディアにふれている時間が概して長く、家庭での学習習慣が十分についていない現状がある。
- 視点2 乱暴な言葉使いやコミュニケーション上のトラブルが多く見られる。授業中の表現力にも児童によって偏りが見られ、全員参加の授業が成立していない状況がある。授業のユニバーサルデザイン化など指導技術・方法にも課題がある。
- 視点3 職員がお互いの授業を参観し合ったり、授業づくりについて話し合ったりする機会が十分に保障されていない。それぞれの職員の実践を結びつけ、よりよい授業を創り出していこうとする気運を高めることが課題である。

取 組		
視点1	視点2	視点3
学びを実感できる授業づくり	学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	子どものために一丸となって取り組む学校づくり
<p>【取組事項】</p> <p>○校内研究の取組 ・校内研究では、算数科を窓口「読み解き力」の育成に向けた授業研究会を実施していく。 ・「こうが授業術5箇条」と「信楽小授業改善4つの視点」を意識し、どの子ども安心して学び合える授業づくりを進める。 ○発信部会の取組 ・信楽小学校版「家庭学習の手引き」を作成・配布し、家庭学習の習慣化について保護者への啓発を図る。</p>	<p>【取組事項】</p> <p>○全校の取組 ・「言葉大切に人やもの丁寧に関われる子」を目指す子ども像の中学校に据え、日々の教育活動や行事のたびに、言葉への意識やコミュニケーションの大切さについて指導する機会とする。 ○信頼部会の取組 ・学習における共通理解・共通推進事項を全職員で共有し、学級経営の土台を固め、各学級での「学びの基盤づくり」を進める。 ・校内ネットワークを活用した「授業1UP術」への書き込みや共有を通して指導技術の向上を図る。 ○特別な支援を要する児童への配慮 ・学習上困り感を持つ児童の実態を見取り、実践可能な合理的配慮事項を具体化する。同時に、全員を授業に巻き込む授業のユニバーサルデザイン化についても研修を進める。</p>	<p>【取組事項】</p> <p>○自信部会の取組 ・職員がお互いに授業を見合ったり、それぞれの実践を交流したりする機会をつくる。校内ネットワークを活用した「授業トレジャーフォルダ」への書き込みやミニ授業公開などを進める。 ○その他の組織 ・OJT、初任研推進委員会、少人数指導委員会などを活用し、授業づくりへの気運を高める。 ○授業参観 ・管理職や教務等の授業参観の頻度を上げ、子ども達の学びの様子や授業づくりについて日頃から話し合える雰囲気づくりに努める。</p>

その他 取組事項

図書館リニューアル事業をきっかけに、読書推進に取り組む。校内で読書推進委員会を設け、校内掲示、図書ボランティアの募集、学校図書館を使った授業づくり等、読書に親しむ環境づくりを進める。

取組の評価

	取組事項	評価指標	1回目	2回目
			評価	評価
全体				
視点1	「学習の手引き」を活用した家庭学習の定着	全国学習状況調査「家で計画を立てて勉強をしていますか」強い肯定的回答を50%以上に(現在21%)。		
視点2	「居心地のよい学級集団づくり」「どの子どもにも達成感のある授業づくり」の推進	校内アンケート「授業は楽しくて分かりやすい」強い肯定的回答を60%に(現在36%)。		
視点3	授業について話す機会の頻度を上げる。	週に1度は各教員と管理職が授業について話をする機会を持つ。		
その他	読書に親しむ習慣づくりに努める。	校内アンケート「時間があれば進んで本を読む」肯定的回答を90%に(現在66%)。		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

今年度の取組の課題

--